

町田市教育委員会 教育長 様

町田市立鶴川第三小学校

校長 鯨坂 映子
(公印省略)

2021年度 学校評価報告書

1 今年度の学校経営計画の重点

(1) 社会に開かれた教育課程の実現

- ア 学校だより、学年だより等を含め、ホームページの更新し、学校状況の配信をしていく。
- イ 学校評価・行事アンケートの回収率を上げる。
- ウ 学校からの連絡、出欠席、すぐメール、Googleform、classroomの活用で双方向の情報共有を図る。
- エ ボランティアコーディネーターと地域連携担当教員と連携し、地域教材や地域人材を活用した体験活動の充実を図る。

(2) 確かな学力の育成

- ア 児童の意欲を高める指導方法を推進し、基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得を目指す。
- イ 主体的・対話的に学ぶ学習の指導方法等を充実させ、思考力・判断力、表現力等の育成を図る。
- ウ 身に付けた資質・能力を生かし学びに向かう力、人間性等の涵養を目指す。
- エ モジュール等での言語能力向上を目指した取組や朝読書等の取組を通じ、発達段階に応じた選書を目指し読書の質を高める。また、ビブリオバトルに挑戦していく。
- オ 調べ学習等で ICT や学校図書館を活用できるような環境整備と児童が親しめる学校図書館の充実を目指す。
- カ 「生活リズム調査(年3回)」を実施、生活習慣の改善とともに、基礎的・基本的な学力の習得と家庭と連携した学習習慣の定着に取り組む。また、navima を通し chromebook の活用の共通意識を高める。

(3) 豊かな心の涵養

- ア 「鶴三のやくそく」に基づく組織的・継続的な指導を行い、挨拶等の基本的な生活習慣確立と規範意識の育成を図る。
- イ 「こころのアンケート」「暴力等防止アンケート」等の実施や SC を活用し、いじめ・不登校の早期発見・早期対応、共通理解・連携体制に努め、いじめ・不登校ゼロの学校づくりを目指す。
- ウ 特別支援教育の充実を図り、一人一人の児童が必要とする手立てを講じられるように、研修を重ね適切な指導を目指す。また、ユニバーサルデザイン等を取り入れた学習しやすい環境を整える。
- エ 不登校対策として、校内委員会を中心に SC、SSW 等関連機関と連携し初期段階から組織的な児童への支援を図る。
- オ 全体計画にもとづく道徳教育や特別の教科道徳の充実、道徳授業地区公開講座の充実を目指し、道徳的価値の自覚を深める道徳教育の充実を図る。
- カ 特別活動等での学級づくりや計画的な縦割り班活動・学び合いの場である異学年交流の推進を通して、よさを認め合う人間関係づくりを目指す。

(4) 健やかな体の育成

- ア 体力テストの結果・分析を踏まえた体育の授業の改善や日常生活での取組を通し、体力の向上を図る。また体づくり運動等を体育の授業や日常的で取り組むことを通して、体を思い通りに動かす能力を高め、運動する楽しさを身に付ける。さらに、児童の体力向上や生涯にわたる体力作りの大切さを発信していく。
- イ 保健指導を通し、歯みがき月間、睡眠時間の確保、バランスのとれた食事、体力向上に向けた運動の継続等の指導を行う。また、家庭と連携しながら「早寝・早起き・朝ご飯・朝トイレ」を実践し生活習慣の改善を図る。
- ウ 栄養士と担任等が連携した指導や地域人材を活用した体験的な学習を通じた食育を推進する。

2 自己評価の総括

(1) 社会に開かれた教育課程の実現

学校だより、学年だより、保健だより、給食だより等の配付をはじめ、学校ホームページの活用を通して、学校の教育活動全体が見えるように公開してきた。

コロナ禍での公開方法を考え運動会、学芸会を公開した。一斉送信メール及び学校ホームページのインフォメーションにおいて、新型コロナウイルス感染症対策情報、風水害等における学校の措置のお知らせをした。

保護者評価では、回収率、記名回答率ともに100%を達成した。情報発信については肯定的な回答率が83%と昨年よりと同程度の数値になった。担当教諭を中心に今後も教育活動及び指導内容等について情報発信に努めていきたい。

「学校が地域と一体となって教育活動にあたっている」という項目では、81%の肯定的回答率であり、昨年度から改善した。オンラインを併用した行事や授業の公開の機会が増え、教員が組織的に取り組んでいる様子を伝えることができたと考える。

(2) 確かな学力の育成

東京ベーシック・ドリル診断テスト及び全国・都学力に関わる調査の結果や児童アンケート（児童による学校評価）の結果を基に授業改善を行った。授業内や放課後に個別指導の機会を設け、基礎的・基本的な知識・技能の確実な定着を図った。また、放課後子ども教室まちともと連携し、児童が放課後学習してから遊ぶという生活習慣を身に付けることができた。

今年度の校内研究は、国語科において、「自ら考え、共に学びを深め合う児童の育成」を研究主題とし、指導内容や指導方法などの理解を深め、授業力の向上に努めた。保護者評価では91%の肯定的回答をいただき、概ね良好と捉えている。

(3) 豊かな心の涵養

児童に集団の中でのルールと役割を自覚させ、社会性を育むために、縦割り班活動、クラブ・委員会活動の充実を図り、意図的・計画的に設けて取り組んだ。

秋には読書週間を実施し、児童一人一人がおすすめる本に出会い、紹介する活動を充実させることができた。教職員がおすすめる図書の紹介や、「読書チャンピオン」の表彰を行うことで、意欲の向上を図った。しかしながら、保護者肯定的回答率59%であり、全項目の中で最も低い評価となった。一方で、児童の肯定的回答率は67%と、保護者と児童の意識の差が見られたが、双方とも読書に関しては低い評価であった。学校で取り組んでいる読書活動をさらに情報発信し、インターネットと書籍を併用した調べ学習を含めた学校図書館及びのchromebookの活用や、家庭と連携した読書活動の充実、読書の質の向上を目指していく。

いじめ・体罰・人権については、「こころのアンケート」の結果を踏まえ、小さなことでも事実を適切に把握し、児童や保護者の言葉に耳を傾けた指導を目指した。セーフティ教室「安心・安全のSNS利用」と関連させながら人権意識を育む活動に取り組んだ。

教職員については、いじめ防止・体罰防止の研修会を校長の指導のもと行い、未然防止の理解を深め実践している。引き続き取り組んでいく。保護者の肯定的回答率は、74%と依然として低い。また、今年度は「わからない」と回答した保護者が21%と微増したことから、新型コロナウイルス感染症により、学校公開の回数が極端に減ってしまったことが原因の一つとして考えられる。学校の様子に分かりにくくなり、不安を感じる保護者がいたことが分かる。さらに、ホームページや学校だよりの充実を図り、情報発信をより細やかに、地域・保護者との協力体制の充実を図る。

(4) 健やかな体の育成

統一体力テスト等の結果をもとに、体育の授業の取り組みを改善してきた。運動会や「マラソンウィーク（持久走）」・「なわとびウィーク」で、個人の目標や学級の目標を設定し、全校で体力の向上に取り組んだ。「つる三タイム」（体育朝会）ではオンラインを併用しながら実施し、体を動かす楽しさや、集団で運動に取り組む喜びなどを感じられるよう努めてきた。保護者アンケートでは、71%の肯定的回答となり、昨年度よりも若干低下した。体力向上は、校内だけにとどまらず、放課後子ども教室「まちとも」の活用や家庭でも外遊びの推奨をしていく。また、今年度から加わった「食に関する知識や望ましい食習慣」の項目では、81%の肯定的回答があった。さらに、望ましい食習慣など健康的な生活習慣の形成を目指していく。

学校保健委員会（講演会）を実施することができ、保護者との共通理解を図ることができた。

オリンピック・パラリンピック教育の一環として、出場選手への応援メッセージ動画を作成し、東京都の事業に参加した。また、町田のパラリンピアンである鹿沼由理恵選手を招き、高学年向けの講演を行った。メダリストの生き方・考え方を知り、児童が自分のこれまでの生活を振り返る貴重な機会となった。

3 学校関係者評価の総括

学校が考える今後の取組に全体的に肯定的評価をいただき、以下の意見をいただいた。

(1) 社会に開かれた教育課程の実現

- ・アンケートの回収率が高く、保護者の評価が高いのは、学校教育への関心度と期待感の表れだと思う。学校、学年、保健、給食などの各種のお便りは精神的連携に不可欠である。また、利便性の高いIT機器の活用は多様な場面での展開が可能で、家庭との連携活用として一方的ではない底上げ、双方のスキルアップが必要だと思う。
- ・今後のITスキル向上に期待する。
- ・Google formの利用で、保護者にとっても回答しやすくなっている。IT機器を上手に利用することで、情報も入りやすくなっているように思う。
- ・IT機器の活用により、今後の教育方法も変わっていくのであれば、今後も重要かと考える。

(2) 確かな学力の育成

- ・学校での分析から、問題点が把握されていて、改善策に反映されているので、新年度に期待する。
- ・一つの正解ではなく、多くの考えがあることを教え、議論する機会を多くすることが必要である。
- ・一定の学習への理解はできているが、それを応用して自分の考えを表現するのはまだ難しい。
- ・学習以外の体験などから勉強の方法、やり方を身に付けてほしい。

(3) 豊かな心の涵養

- ・他者、自己理解と自己肯定感は昨今、重要な問題と思われ、特に「いじめ」は心の成長に影響が大きいので気になる場所である。家庭の問題が子供たちに及ぶケースもあり、学校内での早めの対応・連携も肝要かと思う。また、子供たちが主体的に活動できる場は、物事への興味・関心向上のための大切な時間だと思うので、主体的の幅を持たせるための情報提供（強制ではない）も必要な

のではと考える。

- ・他人を思いやる心と、自分がいじめられる側になった場合のことを考えさせることが大事である。
- ・コロナの影響もあって、家庭以外で人と接する機会も減り、地域の行事もないので、外に出て多くの人と話すこともできなくなった。私たち地域も子供と接することが少なくなって淋しく思っている。子供たちが安心して参加、体験ができるようなことを考えていく。

(4) 健やかな体の育成

- ・学校と家庭との二人三脚的な活動なので、家庭向けにコロナ対策、長期休業や行事、校外学習などのタイミングで、オンライン配信や授業参観の来校時に講習やロールプレイ研修など実施してもよいと思う。
- ・保護者への協力依頼を増やして欲しい。
- ・規則正しい生活習慣とカードやネットのゲームにはまらないように、運動の習慣化が必要である。
- ・コロナによって体力の低下や生活リズムの不安定が生じているのでは。子供たちが外に出たいと思うような行事を地域として考えていきたい。

4 学校評価を受けた改善策

(1) 社会に開かれた教育課程の実現

- ・ITスキル向上を目指し、Google form、Q-Rコード等、保護者に回答しやすい環境を維持する。さらにIT機器を上手に活用できるよう研修会を実施し教員自身のスキルアップに努める。

(2) 確かな学力の育成

- ・理解が難しい児童への具体的な手立てを講じるために、ユニバーサルデザインの視点に基づく指導の充実を図る。週ごとの指導計画に基づき、さらなる指導と評価の改善を図る。
- ・児童自らが学習方法を身に付けていくために、効果的な学習方法を提示し自分にあった学習方法を見付けさせる。
- ・考えをもつ、ペアで共有する、クラスで共有する学習パターンや既習事項の積み重ねと既習事項を用いた課題解決の学習パターンを身に付けさせる。

(3) 豊かな心の涵養

- ・他者、自己理解と自己肯定感を高めていけるように、体験活動を計画的に実施し、児童の行動を価値付け、児童自らの振返りを重視し、成就感達成感を実感できる取組みを目指す。
- ・異学年交流やクラブ活動、委員会活動等の特別活動の充実を図り、児童が自主的・実践的に取り組むことを通して、主体的に考えて行動できる資質・能力を育むとともに、いじめ・いやがらせ、命の大切さに対する意識の醸成を図り、思いやりのある児童を育てる。
- ・月1回の校内委員会、いじめ対応チームの充実をはかり、教職員が一丸となって、報告・連絡・相談、共通理解、共通対応を目指し、児童が安心して学校生活を送れる環境を作る。

(4) 健やかな体の育成

- ・運動の日常化を更に推進する。学級、学年、学校全体で、中休み、昼休み、放課後等の外遊びを推奨した指導を行う。また、家庭へは外遊びの推奨を継続的にしていく。
- ・体育の授業、体育的行事、食育等の活動をさらに充実させていく。
- ・学校保健委員会のさらなる充実を図り、地域や家庭と連携し、児童の体力向上や健康維持に対する意識を醸成する。

5 学校評価の結果の公表

(1) 公表の方法

ア 学校だより3月号で保護者・地域の皆様に公表。ホームページの学校評価のページに今年度の学校評価を掲載。

(2) 公表の内容

ア 共通の評価項目回答集計結果分析および学校運営協議会の評価